

i* フレームワーク ビジネスモデリング手法MOYA

Group I3

08mi105 木下康介

08mi274 山下和希

目次

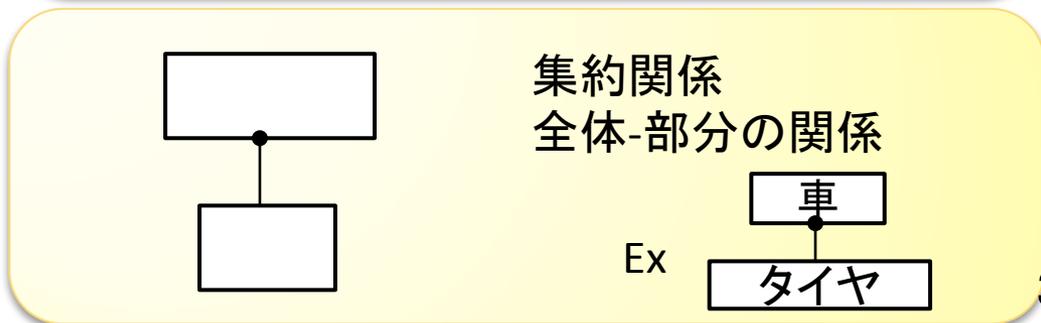
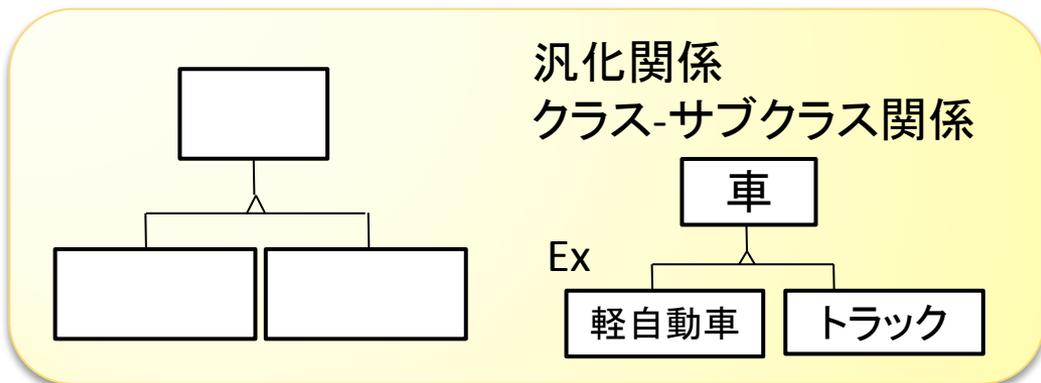
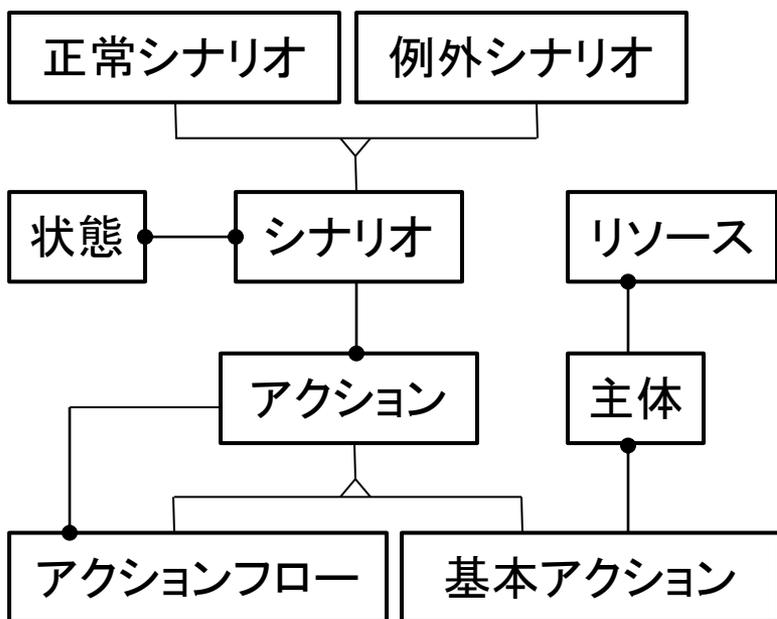
- 前回の回答
- SRリンク
- SRモデルの記述例
- ビジネスモデリング方法論MOYA
- 今後の方針
- 参考文献

前回の回答

シナリオ

システムがどのように利用されるかを説明するための記述。
シナリオを開始するときと終了するときのシステムの状態, 通常のイベントの流れ, 例外のイベントの流れなどを記述する。

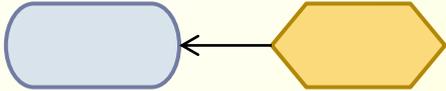
シナリオの構成例



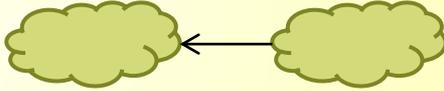
SRリンク

Means - Ends リンク

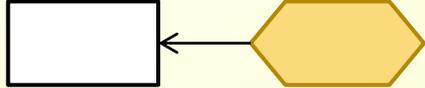
GTLink



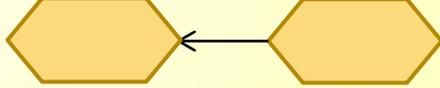
SSLink



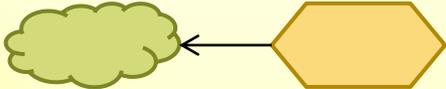
RTLink



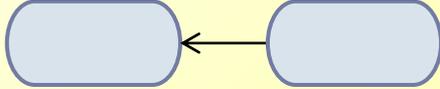
TTLink



STLink

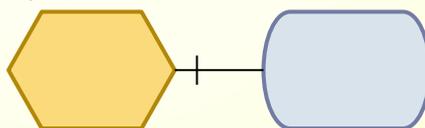


GGLink

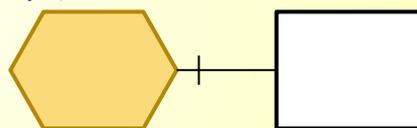


タスク分割リンク

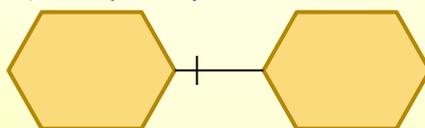
サブゴール



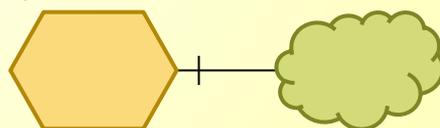
リソース



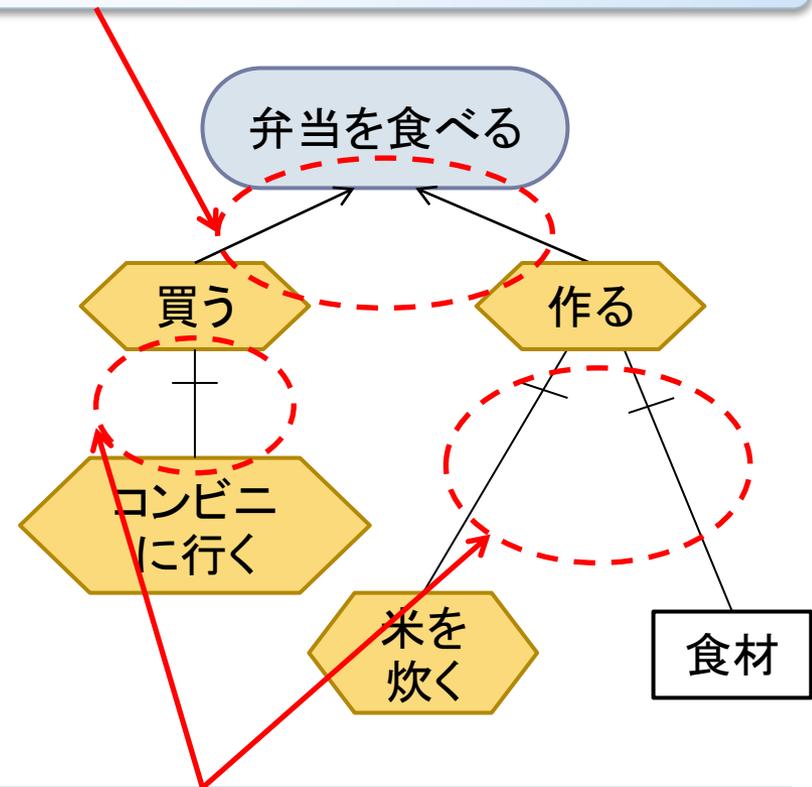
サブタスク



ソフトゴール



目標を達成するための手段に分ける.



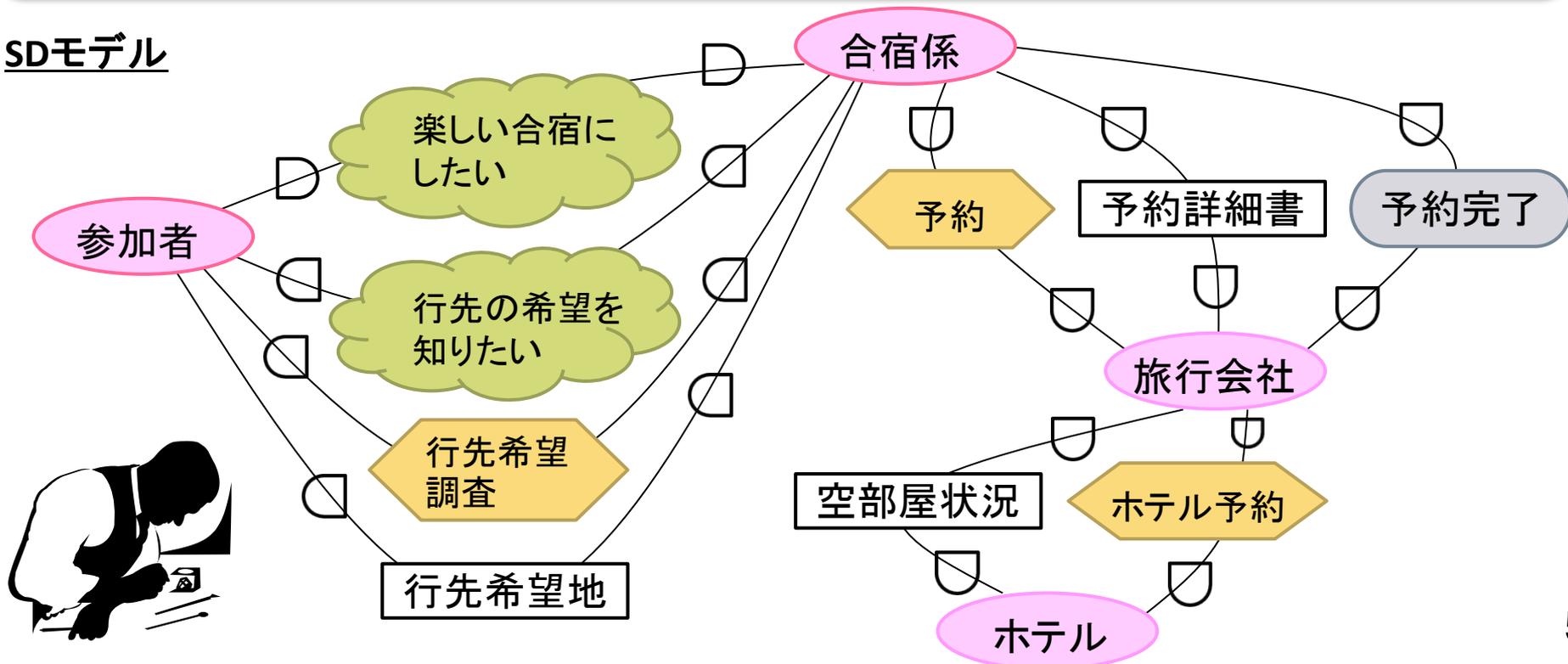
手段を達成すべき要素, 利用する情報に分割する.

SRモデルの記述例[1/2]

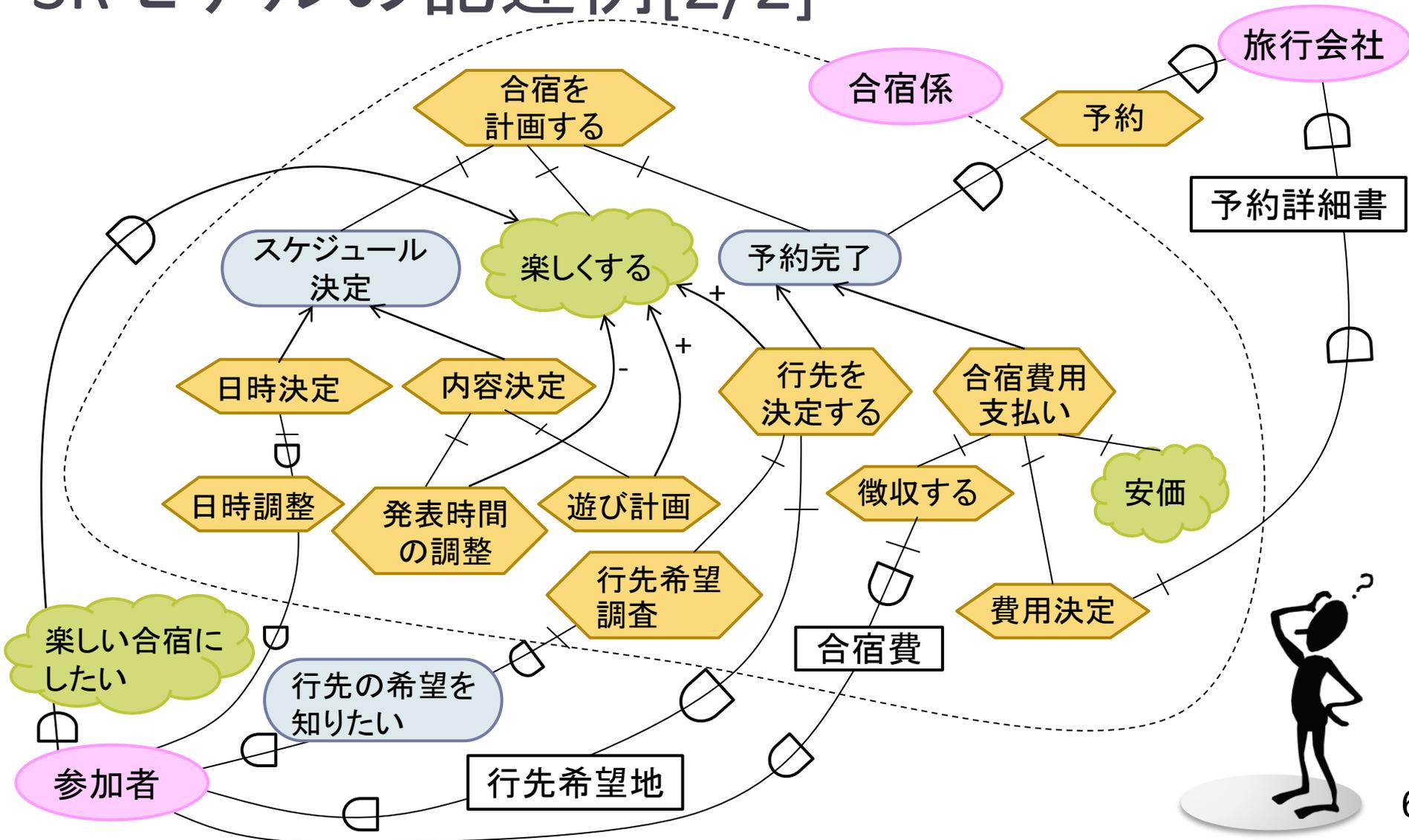
概要

「合宿係がホテルを予約することを目標とする。参加者の楽しい合宿にしたいという要望に対し、合宿係は行先希望調査をとり、希望地にあるホテルの予約を旅行会社で行う。」
前回作成した、SDモデルに基づきSRモデルを作成する。

SDモデル



SRモデルの記述例[2/2]



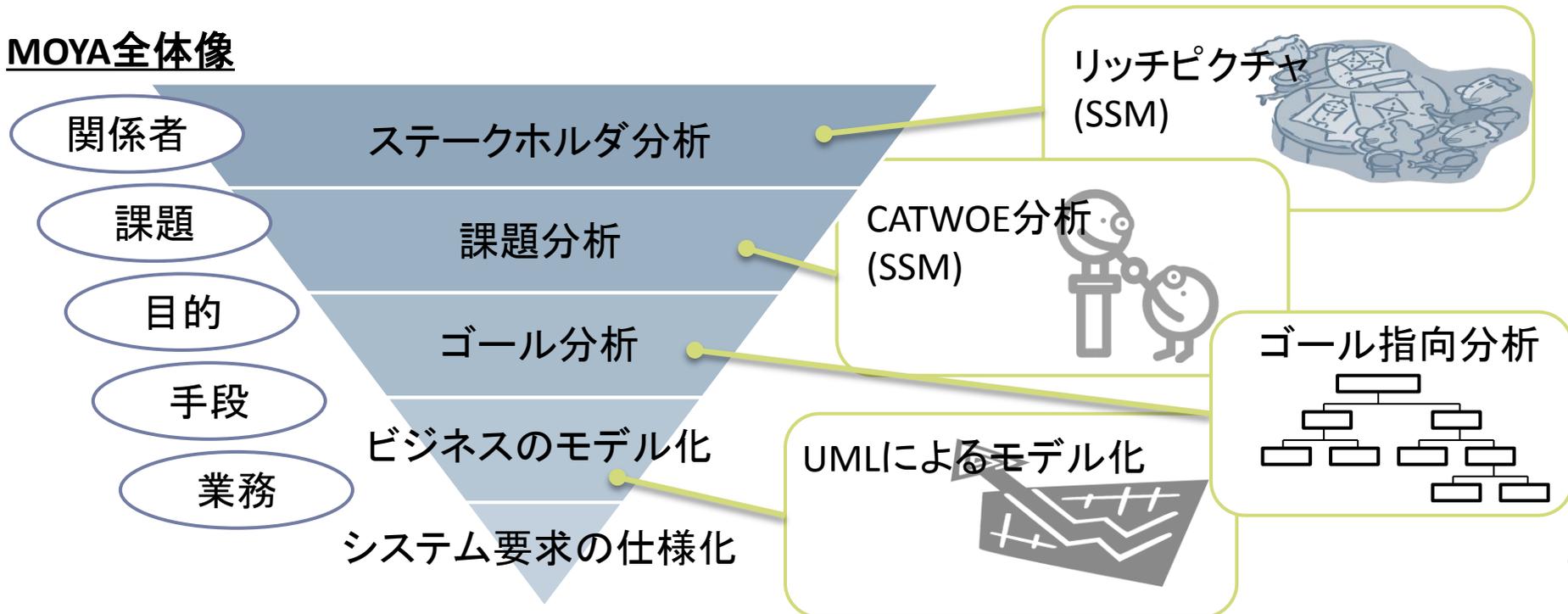
ビジネスモデリング方法論 MOYA[1/5]

MOYA概要

Model-Oriented Methodology for Your Awareness

モデルにより、関係者、課題、目的、手段、業務をモデリングし、要求定義の精度を向上。様々な要求工学手法を統合し、モデル化。

MOYA全体像



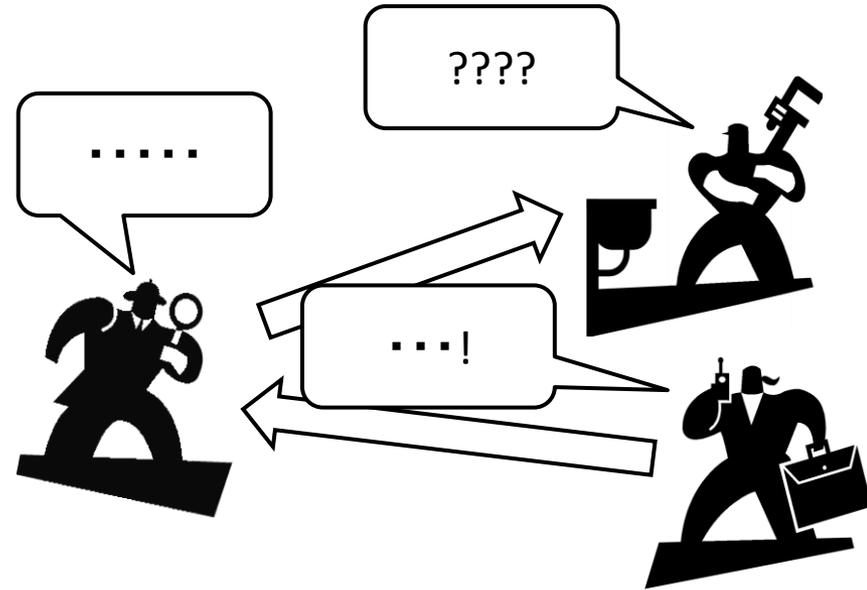
ビジネスモデリング方法論 MOYA[2/5]

ステークホルダ分析におけるリッチピクチャ

情報システムに関与する人や組織の利害関係を分析し要求獲得を行う。

MOYAでは、**リッチピクチャ**というモデリング手法を利用し、分析を行っている。

リッチピクチャでは、直感的に現状を把握し、1枚の紙に絵や文字で自由に表現する方法。



利点

関係者を1つのモデルに列挙し、その間の対立や矛盾を明確にできる。

関係者が持つ、それぞれの課題を把握できる。

関係者間の共通認識を作り出せる。

自由に絵や文字を描きこむことで、追求力を向上できる。

ビジネスモデリング方法論 MOYA[3/5]

課題分析におけるCATWOE分析

C : Customers

課題が解決すると嬉しい人

A : Actors

課題を解決する人

T : Transformation process

課題の状態, 解決された状態を記述

W : Weltanschauung

世界観, 価値観

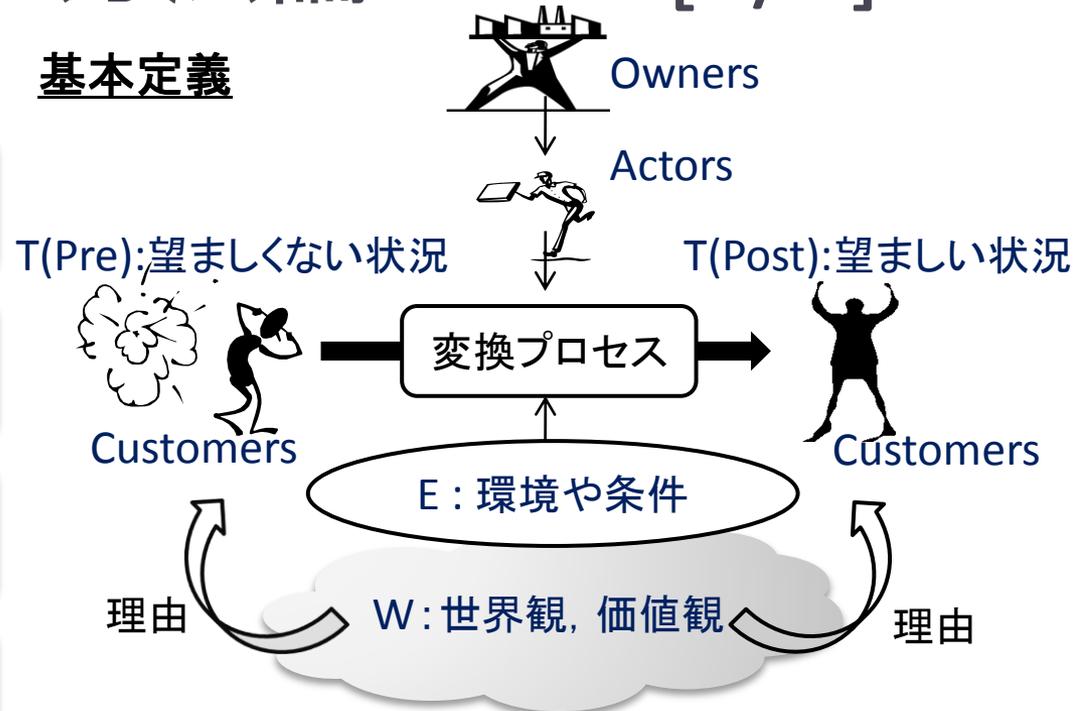
O : Owners

課題解決を許可する人

E : Environment

資源, 環境, 制約条件

基本定義



利点

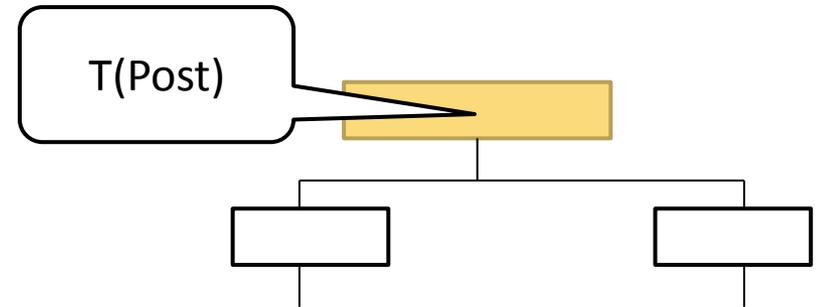
個々の課題を分析し, 理解を深めることが可能.

Wを吟味することで, 課題発見の促進, 合意の形成が可能.

ビジネスモデリング方法論 MOYA[4/5]

ゴール分析

CATWOE分析で得られた, T(Post)をシステム化の目的(ゴール)とみなし, その目的-手段の関係を明らかにする



ビジネスのモデル化

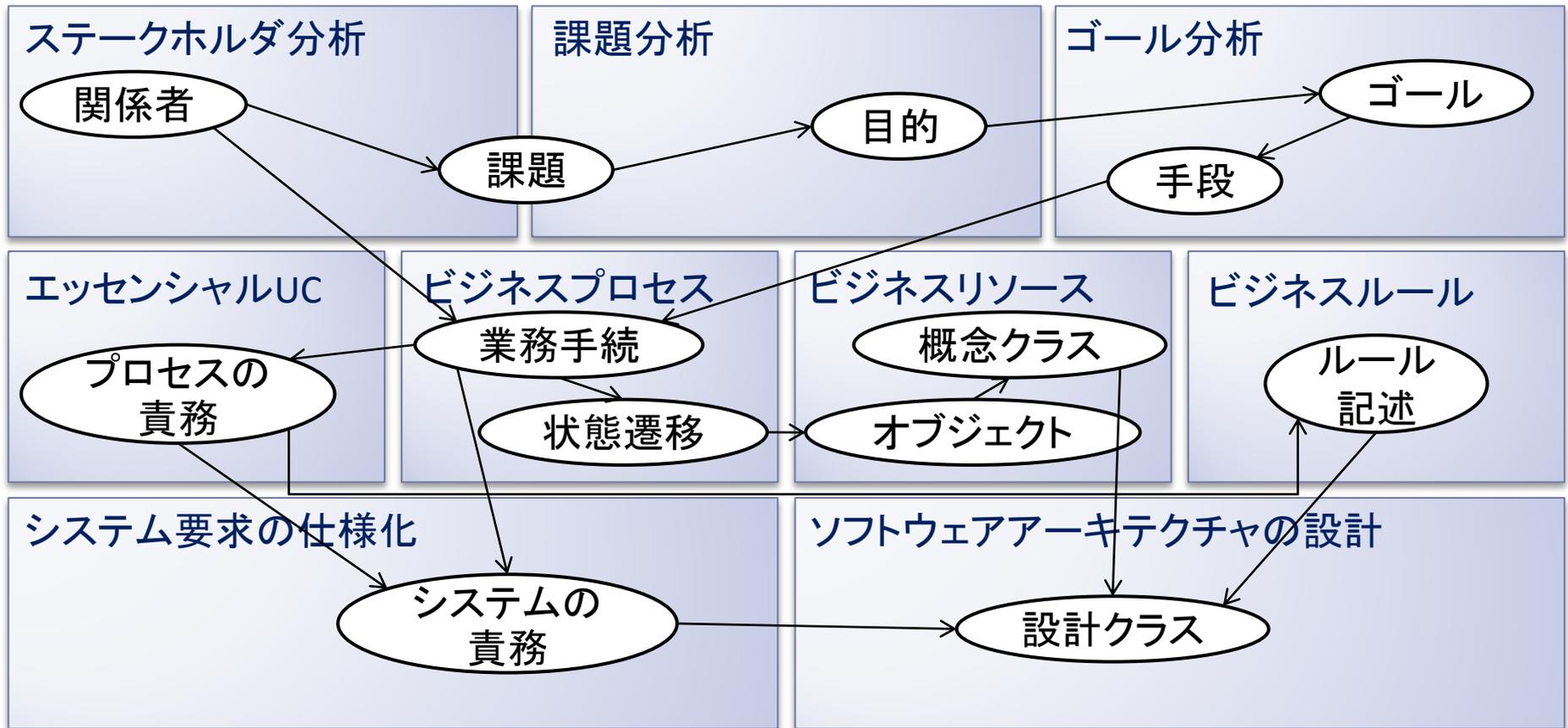
ゴール分析で得られた手段を実施する業務をUMLで以下の4つの視点からモデル化する。
ビジネスプロセス, ビジネスリソース, ビジネスルール, エssenシャルユースケース

システム要求の仕様化

- システム化対象となる, ビジネスプロセスを特定し, システム化範囲を定める。
- エssenシャルユースケースをビジネスプロセス単位で分割し, システムの責務を明記。
- 分割されたユースケースに振る舞いの詳細記述をし, 要求仕様を完成させる。

ビジネスモデリング方法論 MOYA[5/5]

MOYAの成果物の追跡性



MOYAの成果物は関係者や課題，設計までの関係が追跡可能となっている。

今後の方針

- ソフトシステムズ方法論の理解を深める.
- 疑問点に対し, 解決方法を模索する.
 - 疑問点
 - 粒度(詳細化する際の度合い)
 - ゴールの妥当性
 - 要素の獲得方法

参考文献

- システム要求管理技法
 - 著:山本 修一郎
- ソフトウェア要求工学 講義資料
- <http://www.bcm.co.jp/site/youkyu/youkyu31.html>
- ソフトシステムズ方法論
 - 著:ピーター・チェックランド, ジム・スクールズ
- Social Modeling for Requirements Engineering
 - 著:エリック・ユー
- ビジネスモデリング方法論MOYA